いつもそばにいる恋人の勇也君

「家に帰りたい！」

救急車で病院に到着した美奈代ちゃんの第一声です。

通常はめったにやらないことですが、今後、美奈代ちゃんが息苦しさを感じないで自宅にいられるために、病院で胸腔内にチューブを入れたままにする処置を行ってもらいました。

こうすれば、毎回、胸に針を刺さなくてもいいので、看護師である私も、美奈代ちゃんの状態をみて、胸水を抜くことができるのです。

また、当院の牧師さんと二人でゆっくり話す時間もセッティングされました。美奈代ちゃんは、「とっても落ち着いたよ。また話を聞きたいな」

と安心した様子でした。

病院では大学の友人とも会うことができました。そして勇也君は、いつものように、美奈代ちゃんのそばにいました。心と体を支えるように、ピッタリ寄り添い、添い寝もしていました。

私も、張りつめていた緊張の糸を少しだけゆるめ、これまでのあわただしかった日々を振り返り、自分の気持ちの仕切り直しができました。

一泊二日の短い入院でしたが、美奈代ちゃんだけでなく、家族、そして医療チームにとっても有意義な二日間だったと思います。

退院後の美奈代ちゃんは、息苦しさもとれ、穏やかな表情で、ときには笑顔も見られました。

「いつか突然、娘がいなくなってしまうなんて、想像もできません」

退院して、お母さんとゆっくり話せる時間ができたときのことです。

「発病して二年。一つの山を越すとまた次の山が大きく立ちはだかって、つらかった。美奈代がここまでがんばれたのは、勇也君がいたからだと思います。心から勇也君には感謝しています」

こんなふうに、娘の恋人に感謝できるお母さんは、とっても素敵だと思いました。大きいな心で、この若いカップルを包み込んでいるようでした。

（押川真喜子『在宅で死ぬということ』文春文庫 pp.54-55）

一直陪在身邊的戀人勇也

「我想回家！」
這是美奈代在救護車到達醫院時喊出的第一句話。
雖然一般而言不會這麼做，但從此以後，為了讓美奈代能在不感到呼吸困難的狀態下待在家裡，所以特別到醫院施行了胸腔插管引流的手術。
這樣做的話，因為可以不用每次都做胸腔穿刺，身為護理師的我，也能視美奈代狀況替她排除胸腔積水。
而且，也有安排美奈代和本院牧師兩人的談話時間。美奈代露出平靜的表情說「我心情放鬆很多了唷，以後還想再聽牧師說話。」
在醫院，美奈代也見到來探病的大學朋友，然而，勇也也一如往常地待在美奈代身邊。就像是身心上最大的支柱，也會陪伴她入睡。
我也終於能將緊繃的神經放鬆一些，回顧到目前為止這些匆忙慌亂的日子，現在能夠重新調適自己的心態。
雖然只住院短暫的兩天，我認為這對美奈代、對家族、甚至對於醫療團隊來說，都是非常有意義的。
出院之後的美奈代，呼吸困難抑制住了，情緒也平穩許多，有時可以看到她露出笑容。「我無法想像，那天我女兒就這樣走了…」
這是在出院之後，和媽媽有時間好好聊天時，媽媽說的話。
「生病至今也有兩年了。過了一個難關之後還有一個更大的難關，非常不好受。我想，美奈代能努力到現在，都是因為勇也陪伴在身邊的緣故。我真的由衷的感謝勇也。」
能像這樣感謝女兒戀人的媽媽，我認為非常了不起。一定是用寬大的心胸，守護著這對年輕的情侶吧！